

## ▼オレンシア点滴静注用・▼皮下注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 アバタセプト (遺伝子組換え) Abatacept (Genetical Recombination) 【分類】 関節リウマチ治療薬 [T細胞選択的共刺激調節剤]

【単位】 ▼250mg/V, ▼125mg/皮下注シリンジ・オートインジェクター [1mL]

【常用量】 体重60kg未満：500mg, 60～100kg：750mg, 100kg以上：1000mg

■皮下注：初回不可は点滴静注とし、同日中に125mgを皮下注。その後週1回125mg皮下注。あるいは週1回125mg皮下注からの開始も可

【用法】 初回投与後、2、4週後に投与し、その後は4週に1回点滴静注

■調製：添付シリンジおよび注射針を用いて1Vあたり10mLの注射用水もしくは生食で溶解し、生食に希釈し、30分かけて点滴静注[無菌・ピロジェンフリーで蛋白結合性の低い0.2～1.2ミクロンのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通す]

■皮下注：大腿部、腹部、上腕部のいずれか

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期CKD患者への投与方法】 常用量 (1)

【特徴】 ヒトCTLA-4 (活性化抑制シグナルを伝達) の細胞外ドメインとヒトIgG1のFcドメインより構成された遺伝子組換え可溶性融合タンパク質で、抗原提示細胞APC表面のCD80/CD86に結合し、CD28共刺激シグナルを阻害することでT細胞の活性化を抑制する。抗TNF製剤を含む他の抗リウマチ剤による治療効果が不十分な例に対して適用される。他の生物学的製剤との併用は不可。

【主な副作用・毒性】 感染症、口内炎、発疹、高血圧、間質性肺炎、白血球増多、めまい、頭痛、動悸、徐脈、ほてり、消化器症状など多数。

【安全性に関する情報】 生ワクチン接種不可 (1)

【代謝】 肝、血中、組織中で蛋白分解酵素により分解される (1)

【排泄】 分子量が大きいため腎から排泄されない (1)

【CL】 0.3～0.4mL/hr/kg (1)

【t1/2】 約10日 (1)

【Vd】 0.08～0.12L/kg (1)

【MW】 約92,000

【透析性】 透析されない (5)

【薬物動態】 非臨床試験における最大薬理作用を示すと予測した濃度は10 μg/mLであり、1回量はこのトラップ濃度を超えるように設定されている (1)

【備考】 結核、B型肝炎を事前にチェック。

【更新日】 20230313

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配付を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。